第五回分科会等における各委員からの指摘事項への対応

平成17年8月30日
北方領土問題対策協会分科会事務局

委員からの指摘事項	第五回分科会における結論	評価表及び今後における対応
「支援の結果、国民世論の啓発の効果が十分得られたか」という評価の観点に対し、何をしたかというアウトプットが実績の中心となっているため、評価の観点の記述と、実績の記述との間で整合性がとれていない。	北対協の組織･業務の性格から、現時点において定量的に効果を測定する基準を設けるということは困難であるため、評価指標については今後の検討課題とする。	実績における記述に合わせて、評価の観点の記述を修正した。 アウトカムを正確に測る指標についてはにわかに設けることが困難であるため、アウトプットにおける工夫をもって実績を測る等の措置にとどめる。
事業実績報告書における財務に関する資料と財務諸表との間で、整合性のとれていない部分が見受けられるため、これに関しては説明を行うべき。説明が出来ない以上は混乱を招くので掲載を見送った方がよい。	次回分科会までに検討をすることとなった。	北対協より、整合性のとれていない理由について、分科会において説明を行う。
各種アンケート調査においては、満足度を測るだけではなく、ほかにどのようなことを望むか等の意見を記述してもらうようなことはできないか、	現在も自由記述欄をアンケートに設けて、そのような記述ができるよう措置をとっている、	自由記述欄からどのような施策が生まれたかについて例を挙げて説明する。